

史跡旧奥行臼駅逋所主屋保存修理工事報告書

別海町教育委員会



竣工 外観全景（北東上空より）



竣工 外觀正面（東面）



竣工 客室 5 南東よりみる



竣工 客室 8 南東よりみる



竣工 居間北東より台所を見通す



竣工 仏間 床脇・仏壇・トコ正面

序 文

旧奥行臼駅通所は、新潟県出身の駅通取扱人山崎藤次郎の自宅を駅舎として、明治43年から昭和5年まで別海村奥行臼に置かれた駅通所です。駅通所として廃止された後も、山ト山崎旅館として昭和45年まで引き続き営業が続けられました。この間、大正9年に2階建て寄棟の増築、昭和16年に中央棟と南棟の改築が行われています。その後、昭和57年に本町に寄贈されるまで、山崎家の自宅として使われていましたが、同年、町指定文化財に指定し、駅通所内部の一般公開を開始しました。また、平成6年には北海道の有形文化財に指定されています。

平成23年に国から史跡指定を受けたことを機に、老朽化が著しい建物の現状を調査するとともに、外部委員会を設置して保存管理計画を策定しました。調査の結果、今後も建物内部の公開を続けるには根本的な保存修理を早急に行う必要があるとの結論に達し、平成28年度から平成30年度にかけて保存修理工事を行いました。

この事業の目的は、本史跡の最も重要な構成要素である駅通所主屋を恒久的に保存できるよう根本的な修理を行い、その活用を図っていくことにあります。今回の修理工事では、凍結深度1メートルという北海道特有の過酷な環境に耐えられるような基礎工事や、大地震に備える耐震補強工事を行ったことで、その目的を一部達成することができたと考えております。また、その本質的価値をより顕在化させるため、駅通所時代の大正9年に増設された寄棟を、時代考証に基づいてできる限り往時の姿に復原しました。

平成31年度から駅通所内部の一般公開を再開することにしてはありますが、史跡旧奥行臼駅通所が北海道の歴史を体感できる学びの場、憩いの場、交流の場になるよう、今後も史跡全体の整備を着実に進めていく所存です。

ご指導いただいた史跡旧奥行臼駅通所整備検討委員会、別海町文化財保護審議会委員の皆様をはじめ、工事の設計監理と本書の編集に携わっていただいた株式会社文化財保存計画協会と施工業者の皆様、並びに文化庁、北海道教育委員会その他関係機関の皆様から心から感謝を申し上げます。

平成31年3月

別海町教育委員会
教育長 伊藤 多加志

例 言

1. 本書は、史跡旧奥行白駅通所保存修理事業の一部として刊行するものである。
2. 編集にあたっては修理事業の概要の他、工事中の調査事項、発見物及び各種資料等をまとめた。
3. 本文中の表示寸法はメートル法を主に用い、必要に応じて一部に尺貫法を用いた。
4. 写真は修理前、竣工、工事中の記録及び調査事項に関する資料等を掲載した。
5. 建物名称は建物全体を「主屋」とし大正9年創建の寄棟2階建を「北棟」、昭和16年に増改築を受けた妻入玄関を持つ半切妻2階建を「南棟」、その間をつなぐ南北棟の切妻平家建を「中央棟」とした。昭和16年の増改築前に存在していた山崎藤次郎氏邸を引き継ぐ切妻建物は「前身建物本家棟」とした。
6. 発掘調査は石渡一人〔別海町郷土資料館〕が行った。
7. 木材樹種同定は鈴木三男氏〔東北大学名誉教授〕が行った。
8. 設計監理は定期監理とし、株式会社文化財保存計画協会が行った。
9. 本報告書の編集は株式会社文化財保存計画協会が行った。担当は以下のとおりである(敬称略)。

監 修	工事監督	細川道夫
本文執筆 (下記以外)	工事主任	新原朋史
第6章	北茂紀建築構造事務所	北 茂紀

ただし、第1章第1節～第3節、第2章第1節・第2節は、別海町教育委員会『別海町旧奥行白駅通所調査報告書』(2011年)及び同『史跡旧奥行白駅通所祖保存管理計画書』(2014年)の記述を一部修正の上、再録した。

写 真

口絵、巻末写真(修理前・竣工)

写真士・TAMURA 田村 収

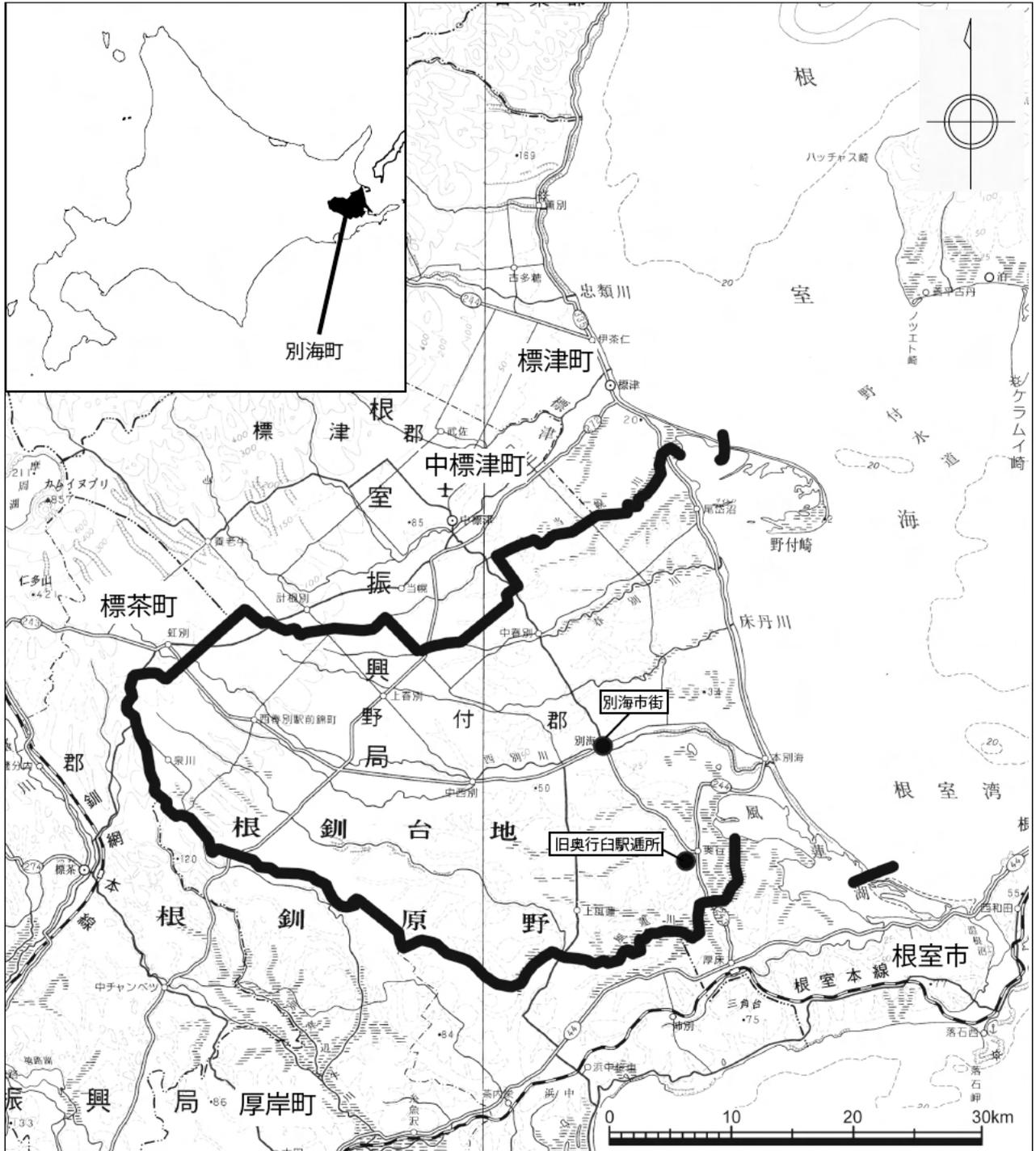
調査・工事写真

株式会社文化財保存計画協会

図面・挿図作成

主任補佐 鈴木 武

10. 本事業にあたっては次の方々のご協力を得た。記して感謝申し上げます(順不同、敬称略)。
文化庁資源活用課整備部門、北海道教育委員会文化財・博物館課、角幸博(北海道大学名誉教授)、西山徳明(北海道大学観光学高等研究センター長)、会田理人(北海道博物館学芸主査)、奥山道紀(釧路製作所総合安全室長)、鈴木三男(東北大学名誉教授)、田才雅彦(文化財サポート)、西澤岳夫(釧路工業高等専門学校准教授)、山内絵理(別海町観光協会事務局長)、山崎アイ子、横井チヨコ、桜井勝治



国土地理院発行 50 万分の 1 地方図（北海道Ⅱ）を使用

別海町及び旧奥行臼駅通所位置図（太線は町境界線）

目 次

第1章 概説	1
第1節 別海町の位置と環境	1
1. 位置 /2. 気候	
第2節 別海町の歴史	1
1. 先史時代から藩幕時代 /2. 明治新体制以降の別海	
第3節 史跡旧奥行臼駅通所の概要	3
1. 駅通制度の概要 /2. 道内に存在した駅通所 /3. 奥行臼の歴史	
4. 駅通所の開設と駅通取扱人山崎藤次郎 /5. 奥行臼駅通所の廃止	
第4節 建造物の概要	6
1. 概要及び規模 /2. 文化財の指定 /3. 創建及び修理の経過 /4. 構造形式（竣工）	
第2章 事業の概要	11
第1節 事業に至る経緯	11
第2節 事業の内容	11
第3節 事業組織	12
第4節 事業費	14
第5節 工事工程表	15
第3章 調査事項	16
第1節 破損調査	16
第2節 官設駅通所建物の標準仕様	22
第3節 創建及び変遷	24
1. 概要 /2. Ⅲ期（北棟増築期）の建物 /3. 昭和16年増改築工事の考察	
4. Ⅰ期・Ⅱ期の建物 /5. 後世の改造等の扱い（建造物の現状変更以外）	
第4節 技法調査	35
1. 平面計画 /2. 矩計計画 /3. 番付 /4. 基礎 /5. 軸部 /6. 軒廻り /7. 小屋組 /8. 造作 /9. 屋根	
10. 塗壁 /11. 建具 /12. 貼付壁 /13. 畳 /14. 煉瓦煙突 /15. 鍔金物 /16. 樹種同定	
第4章 建造物の現状変更	54
第1節 現状変更説明	54
第2節 現状変更の内容	55

第5章	実施仕様	68
第1節	修理方針	68
第2節	仮設工事	68
第3節	解体工事	69
第4節	土工事	70
第5節	基礎工事	71
第6節	木工事	72
第7節	揚家工事	76
第8節	屋根工事	76
第9節	左官工事	77
第10節	建具工事	78
第11節	貼付壁工事	79
第12節	塗装工事	80
第13節	構造補強工事	82
第14節	煙突工事	82
第15節	雑工事	85
第16節	外構工事	86
第17節	設備工事	87
第6章	構造補強	90
第1節	耐震診断	90
1.	構造上の特徴 / 2. 耐震診断方針 / 3. 耐震診断結果 / 4. 耐震診断結果のまとめ	
第2節	補強設計	92
1.	補強の方針 / 2. 補強後の計算結果 / 3. 実施仕様	
図	版	
工事写真		97
	修理前竣工(文化財保存計画協会撮影) / 仮設工事 / 解体工事 / 揚家工事 / 発掘調査 / 土工事、 基礎工事 / 木工事 / 屋根工事 / 左官工事 / 建具工事 / 貼付壁工事 / 塗装工事 / 構造補強工事 / 煙突工事 / 鋳金物工事 / 畳工事 / 外構工事 / 設備工事 / 発見物	
史料		149
修理前竣工写真		147
図面		187